

# 1年学年だよ

No.6 令和元年6月12日(水)

愛知県立内海高等学校 1学年

高校生になって初めての行事、美浜少年自然の家への遠足が終わりました。前日までは、「めんどい」、「やだ」、「行きたくない」、「何で歩かなかん?」というマイナス発言が多く聞かれましたが、一人もリタイヤすることなく歩き切りました。学校へ戻った生徒たちの表情はとも晴れやかでしたよ。



## 遠足を終えて

### 1-2A Oくん

行くときいろいろありました。何でこんなに育つの!? って言うくらいに生えている草たちや、たくさん虫、ものすごくトラウマになっているヘビ、みんなが叫びまくった小さなトンネル、そして飛ばしまくったタンポポちゃんがありました。だんだん楽しいと思い始めて、虫には慣れて、ヘビのことは忘れて、タンポポを飛ばして鳥に名前をつけて、プリキュアを歌いました。疲れてもがんばって弱音を吐かずに歌いました。そうしたら、私は一人ではなく、多くの人と一緒に歌っていました。そのときのみんなの笑顔を守りたいと思いました。来年も再来年もみんなで行けたらいいなあと思っている間に美浜少年自然の家に着きました。そこではみんなが楽しそうにおしゃべりや運動していました。歩いたあとのごはんとタマゴボーロは最高でした。

それから一休みして帰り道へレッツゴー。帰り道はみんな疲れていてブーイングが飛び交いましたが、ブーイング言っているやつらの方が楽しんでいてこっちも楽しくなったので、帰り道も歌って帰りました。幸運なことに帰り道はヘビに会いませんでした。そうして歩いて、鳥に会って、フンを落とされ、名前をつけ(フン子)、歌っての繰り返しをしている間にあっという間に学校に着いちゃいました。学校についてクラスごとにアイスクリームがもらえました。みんなで食べたので倍おいしく感じました。

今回の遠足ではとても楽しく感じましたし、団結できていたのかなあと思い、これなら9月の山登りもうまくいきそうなので安心かと思い、楽しみになりました。



## 1-1 B Hさん

最初の頃行きたくないと思っていた理由は、一つ上の先輩たちが、「マジでくそ疲れるよ」とか、「くそダルいけど頑張って」などいろいろと言っていたので嫌な印象しかありませんでした。ですが、実際に遠足が始まってみると、1 Bのみんなとたくさん話せて、他のクラスの子ともいつもよりたくさん話せて、先生たちとも話しながら歩いていました。いつもは授業や勉強の話が多いけど、歩いている最中はプライベートな話など聞けて楽しく過ごせました。

ですが、その楽しい時間も行きだけでした。美浜少年自然の家に着いた頃に靴ずれしちゃっていて、足がすごく痛くて、辛かったです。みんなでお昼ご飯を食べて、その後にバドミントンをして、frisbeeをして、まさか高校生になってもfrisbeeで楽しめるとは思っていなかったの、とても楽しかったです。その後のクラスの集合写真にあんりがいなかったのは何か少しさみしかったです。

熱中症になりながらも何とか最後まで歩いて達成感を味わえました。最後に教室に戻ったときに、先生たちがみんなに配ってくれたアイス、超うまかったです。これだけ頑張って歩いたことはたぶん一生の思い出になると思います。クラスだけじゃなく、学年全体の絆が深まったと思います。

## 1-1 A Iさん

始めは行くのが本当に嫌で休みたかったけど、行ってみたらきつかったけどいい思い出になりました。行きは3 Aの子たちがすごいい話してくれて楽しかったです。着いてからお弁当を食べて、いろんな道具で遊んだときは本当にみんなはっちゃけていて、すごい笑顔がキラキラしていました。普段おとなしい子が野球をするなど驚きもありました。

帰りで体調が悪くなってしまい歩くのがつらいなって時に、1 Bの子や2 B、3 Aの子たちが荷物をもってくれたり、「がんばって」と言ってくれたりしてすごくうれしかったし、最後まで歩こうと思いました。もし、誰かが体調が悪かったり、助けを求めていたりしたら気づいてあげられる人になりたいです。これからこの学年でたくさんの行事をやと思うけど、その一つ一つを全力で楽しみたいです。遠足で励まし合い助け合うことの大切さを学んだので、それをいかして学校生活を送りたいです。

一人ではつらいこともみんながいれば楽しくなるし、これからの行事が楽しみです。クラスで協力しなければいけないところは協力して、学年で楽しむときは全力で楽しんで明るい学校生活を送りたいです。



### 【最近の1年生の様子】

6月から朝補習が始まりました。1年生64名中、13名の生徒が、国語、数学、英語の学習に励んでいます。基礎固めや英検取得など目的はそれぞれですが、自主的に学ぶ姿勢を応援したいと思っています。

また、ボランティア活動も始まり、多くの生徒が活動に参加しています。学校近くの特別養護老人ホーム“大地の丘”へ行き、高齢者と触れあう「大地の丘ボランティア」、学校周辺や通学路などの掃除をし、地域に恩返しをしようという「地域とあゆむボランティア」があります。この2つ以外にも、南知多町や美浜町から依頼があったボランティア活動も行っています。学校のホームページで活動の様子が見られます。

6月4日（火）に、交通安全講話がありました。一宮特別支援学校の則竹先生を講師にお招きし、ながらスマホの危険性について学びました。則竹先生は、お子様をポケGOをしながら運転していたトラックに轢かれて亡くされています。

## 交通講話を聞いて

### 1-2A Fさん

私は、今回の交通講話を通してたくさんのことを学びました。いつもニュースを見ていると事故のニュースが流れてきますが、悲しいと思う程度でした。ですが、亡くなってしまった敬太君のお父さん本人から聞くお話はとても生々しくて、ニュースや他人を通して聞く話より何百倍もメッセージ性がありました。家族の気持ちを考えると本当に胸が痛いし、目の前で事故を見てしまった兄の気持ちを考えると、とても泣けてきました。私も姉妹がいるので、自分に置き換えて考えてみるとこんなに悲しいことがあっていいのかと思いました。ながらスマホも他人事ではありません。もしかしたら、自分や家族、親戚が加害者、被害者になるかもしれません。その“もしかしたら”を忘れてはいけないなと痛感しました。

あと、日本の制度も少し変えて欲しいです。どうして一人の命をなくしたのに、その加害者は懲役3年で済んでしまうのかと思いました。命の重さはみんな同じだし、敬太君の周りの人たちのことを考えるとそう思うし、関わりのない私ですらそう思うのです。もっと平等な世の中になってほしいと心の底から思いました。最後に、家族や周りの人を大切にしようと思いました。

### 1-1A Mくん

ゲームでは何度死んでも復活ができるが、現実では誰もが命は一つ。一度死んだらそこで終わりだから、ながらスマホを絶対にしないようにする工夫を身につけようと思います。

### 1-1B Nくん

（事故で亡くなった）子どもはまだ小さかったです。本当なら、今日しっかり生きて、学校に行って、勉強したり友だちと楽しく過ごしたりしていたはずです。事故はいつ起こるか分かりません。一日一日を全力で楽しく過ごそうと思います。今、学校に行けていること、ご飯を食べられていること、みんなとしゃべれることを毎日幸せだと思って過ごしたいです。



### 1-2B Tくん

今日の授業である言葉が胸に刺さりました。それは、あい（愛）で始まりをん（恩）で終わるということです。これを初めて聞いたときは、確かに初めに親から愛をもらっていると思いました。



## 交通事故 遺族の声

～ながらスマホSTOP～

則竹 崇智

### ながらスマホで失った9歳の息子の命

その日は突然やってきました。

職場に一本の電話が入り、「とにかくいちゃんが大変だからすぐに病院にきて」との私の母親の一言で病院に駆けつけました。

病院に着いても集中治療室に入ることができず、家族で待ちました。待っている間に病院にきた警察官から敬太が持っていた潰れてしまった水筒、メガネ、ランドセル等を受け取りました。

すると12歳の長男は、「父ちゃん、敬太の水筒が壊れて使えないよー、直してやらないと。」と直るはずのない水筒を必死に押し直そうとしていました。

しばらく待合室で待った後、治療室に入ることを許されましたが、そこで目の当たりにしたのは、医師に馬乗りになられて心臓マッサージを受け、瞳孔が開いたままの敬太でした。

その後も必死の措置が行われましたが、医師から言われたのは「今、敬太君のお腹の中は大量に出血した血液でいっぱいになった状態で血圧が保たれていますが、メスを入れると、それで終わりです。」という言葉でした。

私は諦めることができず、「肝臓の一つくらいあげてもいいですから、何とか助けて下さい。」とすがりましたが、最後は一緒にいた私の父親が私の肩をそっと引き、「敬太はがんばったよ。」と促したのです。

それから間もなく、家族に囲まれながら敬太は生まれた病院で息を引き取りました。

敬太は菜園下校で横断歩道を横断中に、スマホでゲームをしながら運転していたドライバーに命を奪われたのです。

もう二度とこんな悲しみにくれる家族を増やしたくありません。

そのために、全ての人が前を見るという当たり前のことを守って運転して下さい。

「つぶれた水筒をもとに戻さないで、いけないんだよ……」  
愛知県一宮市で昨年十月、トラックにはねられ死亡した13歳の小学四年則竹敬太君。当時、二歳の兄は事故直後、両手で何度も水筒を直そうとした。水筒を直せば、弟が助かるかもしれないと

### 目録 つぶれた水筒

「事故の加害者にも、」  
運転手の男は、スマートフォン向けゲーム「ポケモンGO」をしながら運転していた。

「つぶれた水筒を必死に直そうと頑張る敬太君の姿、父の崇智さん、同市内の高校であった交通安全講話で話していた。」  
被害者にもならないようにしてほしい。教員でもある崇智さんは、得た、市の運転免許を取得する生徒たちに思いを伝えている。

↑ 中日新聞 2017年 10月 17日 夕刊

← 愛知県安全運転ガイドより

## 自分の番 いのちのバトン

父と母で二人 父と母の両親で四人 そのまた両親で八人 こうしてかぞえてゆくと

十代前で千二十四人 二十代前では～？ なんと百万人をこすんです 過去無量の

命のバトンを受けついで いまここに 自分の番を生きている それが あなたの

いのちです それがわたしの いのちです

みつを

相田みつを「本気」文化出版局より

